

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立 新南小学校	嶋田 弘人
学校所在地		
(〒 640 - 8328) 和歌山県 和歌山市木広町4丁目23 tel 073 (425) 0121 fax 073 (425) 0213		
担当者名		役職名・担当教科
北山 友梨 / 岩本 陽介		教諭・6年担任
〔学校の概要〕 本校はJR和歌山駅からも近く、和歌山市の中心部に位置する。周りは住宅や商業施設が多く、公園などもあるが、子供たちは自然環境の中で存分に遊ぶという経験は少ないように感じる。全校児童は、約250人で、中規模校である。また、国語科の研究校でもあり、本年度は、「生きてはたらく言語力の育成～子供同士が自ら関わり合い、言葉をつくして伝えあう国語～」を研究主題として、言葉の力の育成に向けて取り組んでいる。		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 6年生 38名	名 職員 名	本校、世界遺産センター
実践研究テーマ		
世界遺産について知り、自分たちが住む和歌山に愛着と誇りをもち、関心を深めるようにする。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	知り ^{たい} 隊 調べ ^{たい} 隊 伝え ^{たい} 隊 和歌山県の宝	
〔キーワード〕 世界遺産学習 情報活用能力		
〔単元目標〕 （１）和歌山県の歴史や世界遺産について調べ、伝え合う活動を通して、和歌山県のすばらしさやよさを感じようとする。（知識及び技能） （２）自分たちの生活の基盤であるふるさとが、様々なつながりによっていることを認識し、地域への帰属意識とふるさととしての意識を高め、これからの自己の生き方について考えようとする。（学びに向かう力、主体性） （３）自分の興味関心に基づいた学習課題をもち、インタビューやイーネット、資等を活用して調べる方法を考え出して、情報収集したり、必要な情報を取捨選択したりして、目的に応じた資料の収集、整理をしようとする。（思考力・弾丸力。表現力）		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 15 時間 （「 知り ^{たい} 隊 調べ ^{たい} 隊 伝え ^{たい} 隊 和歌山の宝 」 12 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター 次世代育成事業(世界遺産入門、現地学習、保全保持活動等) 世界遺産マスター 現地学習		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	教材との出会い 高野山を開いた弘法大師空海について 知ろう。	空海の一生を紙芝居にしたものを読み聞かせ する。空海についてや高野山の歴史、七不思議 等についてのクイズをする	観察 学習のふりかえりシート (学びに向かう力、主体性)
2	世界遺産について知ろう。 和歌山の世界遺産について知ろう、	・世界遺産とはどんなものなのか、どんな種類 があるのか、話を聞いたり、自分で調べたりす る。 ・和歌山の世界遺産について調べる。	ワークシート (知識及び技能)
3	高野山を歩き、体感しよう。	・高野山について世界遺産マスターの方のお話 を聞いたり、現地に訪れ、ほんものにふれる体 験を通して、和歌山の自然や世界遺産について の学習を深める。	観察 自己評価 (知識及び技能) (学びに向かう力、垂体性)
4	高野山の魅力を伝えるパンフレットを作 ろう。	・インターネットや資料で調べたことや現地学習で学 んだこと、感じた魅力をパンフレットにまとめる。 ・高野山の魅力が伝わるように表現を工夫させる。	パンフレット (思考力・判断力・表現力)
5	高野山の魅力を伝えよう。	・作成したパンフレットを見合い、交流する。 ・自分たちが感じた高野山の魅力を劇やクイズ にして、集会で学習発表をする。	観察、ワークシート 自己評価 (思考力・判断力・表現力)
〔単元学習の成果と課題〕			
【成果】 ○官界の学習を通して、世界遺産について知り、特に自分たちが住む地である和歌山に世界に向けて自慢できる宝がある ことに気づき、誰かに伝えたいような魅力を感じることができた。また、現地学習で道普請活動を体験できたことで、 世界遺産に登録されるだけでなく、維持、保全していくことも大切だということを実感できた。			
【課題】 ○インターネットや資料を活用して調べること、体験して感じたことをパンフレットという形に表現する活動は個人差も 大きく、支援が必要であった。自分なりの学習課題をもち、追求していくことは、これからも指導していく必要がある。			
〔世界遺産学習の効果〕 ○担任だけでなく、世界遺産センターの方、世界遺産マスターの方など多くの人に出会い、関わることができた。調べ学 習だけで終わるのではなく、現地を訪れ、ほんものにふれることで、子供たちの興味関心や学習意欲も高めることができ た。学習のふりかえりにも和歌山の宝について知ったことで、和歌山が好きになった、いいところだと思ったというよう な記述が多くみられた。また、3学期にの社会科の国際連合や世界がかかえる諸問題についてどうきょうりよくしていく のかなどの学習へのつながりがもてた。			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕 これから変動が激しい国際社会の担い手となる子供たちの資質を高めるやめには、世界遺産を通して国際協調の精神を 培う手立てとなる授業づくりが必要である。今回、体験を通して学んだことを社会科の国際理解や現代社会が抱える諸問 題についての学習や自分たちの生活につなげていきたい。			

様式 2

令和 4 年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

○10月21日(月)

事前授業として、弘法大師空海の一生についての紙芝居の読み聞かせを行った。その後、高野山の歴史や七不思議、言い伝えなどのクイズをした。家族で高野山に行ったことがある経験話してくれる子もいた。高野山ということは聞いたことはあるが、行ったことはないと答える子も半数以上いた。子供たちは、奥の院の歴史上の人物のお墓や姿見の井戸など、早く行って見たいと楽しみにしていた。



○10月 25 日(金) 現地学習(高野山)

午前中、道普請の活動を行った。全員で 1 トンの土を運び、高野山の山中の道の補強を行った。はじめは、1 トンの土の量に驚く子もいたが、大自然の中で夢中で作業を行った。土を運んで何往復もし、踏み固め、やり遂げたときは子供たちも達成感を感じていた。世界遺産に登録されるだけでなく、その後も維持して保全していくことの大切さを実感することができた。



作業後は、壇上伽藍、金剛峯寺、奥の院を世界遺産マスターの方のお話を聞きながら歩いた。事前学習でみていた覚版「坂、姿見の井戸、みろく石や武将の墓など興味深く見学していた。触れられるものは、実際に触れて体感していた。世界遺産マスターの方のお話も詳しくて、熱心に聞き入る子もいた。



【子供たちのふりかえりより(一部)】

・壇上伽藍の朱色の建物がとてもきれいだった。インターネットで見た写真よりもきれいだったし、大きくてびっくりした。三鉢の松を拾った。お守りにして、お財布に入れておこうと思う。

・奥の院の大きな木に触って、パワーをもらった。何百年も前からここに立っているって、なんか不思議な気がした。姿見の井戸をのぞくときは、ちょっとドキドキした。友達と一緒に見た。明智光秀の墓の石が何回も割れるって聞いて、ほんまに織田信長の恨みなんかあったって思った。高野山っていいところだなってあらためて思った。

・初めて土を運んで、道の補強をするという活動をしました。難しいかなと思ったけれど、やり方を教えてくれたのでできました。みんなで全部運んだ時は、やったーと思いました。私たちは今日だけだけど、ずっとこうやって守ってきてくれたんだって思った。いい経験になりました。



○10 月末～11 月中旬 パンフレット作り

自分たちが体験して感じた高野山の魅力を県外や海外から来たお客さんに伝えようとパンフレット作りをした。「せっかく和歌山に来たんやから、高野山の〇〇見ていってよ～」をテーマにした。高野山の七不思議、高野山の歴史、空海について、壇上伽藍(三鉢の松)など、自分たちが紹介したいテーマごとにグループを作り、調べ学習を行いながらパンフレットを作成した。インターネットや資料で調べたことだけでパンフレットを作るのではなく、実際に高野山を訪れ、自分の足で歩き、苔むした石、自然の音など五感すべてで感じてきたからこそ、子供たちは伝えたいことがあったようだ。そんな子供たちの姿を見ていて、今回の事業では、学校の教室の中だけではできない授業で、“ほんまもん”にふれる貴重な経験になったと思った。できたパンフレットをお多大に見合い、交流する中で、和歌山駅とかに置いて、県外から来たお客さんに見てもらいたいと話す子もいた。



○12 月 10 日(火) 感謝と実りの集会 (地域の方をお招きしての学習発表会)

当初の学習計画にはなかったのだが、学習発表会で何を発表するか子供たちと相談する中で、空海の一生を劇にしたいというアイデアが出た。空海の幼少期、中国での修行時代、高野山を開いた頃、そして晩年とグループに分かれ、台本を考え劇にして、全校や地域の方に見ていただいた。空海や高野山にまつわる三択クイズも作成し、発表した。

